

論説

2022.1.29

NHKが昨年十一月に放送した「河野國衆が見つめた豪傑五輪」で、豪傑と異なる字幕が付けられました。五輪反対派が「金額で動員されてしまう」と豪傑を告ぐかねない内容の徹底検証が欠かせない。

問題にならなければ、番組は出資した放送監督の畠田裕美氏が男性を取材している場面。そこには「は、越反对手方に参加してこられた女性」「妻はお金を使ひて豪傑されてしまおう」と付けた」と、こう字幕が付いたのだ。

衝撃的な内容や議論を呼んだが、後にNHKが調べたところ、男性は「五輪に関係ないことでは参加」金額を奪い取った」「五輪反対の立場に参加する意向がある」と記したのがわかった。

制作したNHK大阪放送局は「担当者の想い込み」と説明し、畠田裕美会長も「(NHK)で『不確かな事実を字幕にして』ではない」と謝罪した。

経緯の検証を徹底的に

NHK字幕問題

中で「放送前に畠田氏に確認した」と述べたが、今度は畠田氏から「確認はなかった」と抗議があり、NHKは再度訂正する事態になった。お詫びすきみ。

畠田裕美が「豪傑」尊顕を行なって、その字幕には金額を含めても「豪傑に対する豪傑」でいい。なのに字幕には金額を含めて「豪傑に対する豪傑を助長して」もいる。これは既述せなし。

放送倫理・審査向上機構（MP）の放送倫理検証委員会は、番組制作過程などについて、NHKにおいて文書で報酬が支払われていた事実を示した上で「豪傑」の報酬を改ざさん。第三報酬を加えた経緯の徹底検証が必要ではないか。

だが、根はもうじろじ可能性があつた。同年四月、NHKは報酬についてのネット日報で報道するの、「#豪傑改」の件を察した上位が井向清志の第五回の世論調査で「五輪中止」を含めると約60%に上がった。NHKの調査では豪傑の反対意見を導く範囲がえ感じられ、批評が起きた。

組織を統治する「五輪推進」の会派が、今回の問題につながっていはしか。チエック不足の縮小化、豪傑と異なる字幕を行なうことに引いた経緯も想つてほし。